

風邪がはやっている。

毎年新種のウイルスが発
生しているのだが、最近
の風邪は薬を飲んでもな
かなか治らず、長引くの
が特徴だ。

「気がつかないうちに風
邪が進んでいて、全身が
だるく熱も38度から下が
らなかつたが、この薬を
飲んだら楽になつた」
「人込みで寒けがした
ら、ノドと鼻の奥が痛
く、熱が38度を越し、せ
きも出てきた。そこでこ
の薬を飲んだらすつかり
よくなつた」

愛用者から熱い支持を受
けている薬の名前を「青
木かぜ薬」という。
発熱や、ノドや鼻の炎症
は、感染を防ぐための防
衛反応で、強い解熱鎮痛
剤で無理に症状を抑える
と、逆に完治が遅れるこ
とになる。
この薬はカッコン・マオ
ウ・ケイヒ・シヤクヤク
などの10種の生薬からな
り、作用は穏やかだが確
かな効き目を発揮する。家
伝薬なのだ。

製造元は鹿児島県・薩摩
半島に位置する大浦町の
青木流芳院。

青木家はもともとは医者
の家系で、1605
年、青木源助がこの地で
医業を始め、患者に施薬
を行ったのが創業とされ
ているから、400年
の歴史を持つことにな
る。以後この地が加世田
郷といわれたことから、
「加世田の薬」と南九州
一円で評判をとつてきた
のだ。18代目になる青木
浩太郎氏（40）がこう話
す。

「『青木かぜ薬』は、初
期の風邪の症状はもちろ
ん、インフルエンザで病
院の薬を飲んでもなかな
か治らないときにも効果
を発揮します。気管支
炎・気管支喘息・鼻炎、
そして花粉症にも優れた
効き目を表す名薬と自負
しております」
いまだ副作用の報告がな
いというのもいい。家庭
の常備薬として置いてお
きたい一品だ。

効能に四季風邪・悪寒・

発熱・発汗・頭痛・頭重
等とある。1日3包、
1包につき水270ミ
リリットル（1合5
勺）を入れ90ミリリッ
トル（5勺）に煎じつめ、
1回量として毎食前に服
用する。

30包入り3000円。

問い合わせ

0993

62・2001